

立冬を迎え、朝夕の寒気が身にしみる頃となりました。

本日はお忙しい中私共の花展に足をお運びくださり誠にありがとうございます。

令和二年は、コロナ、七月豪雨と未曾有の災害が起りました。被災された皆さまには謹んでお悔やみ申し上げお見舞い申し上げます。

さて、この度のコロナ禍で二月末～九月初めまでの間お稽古を自粛いたしました。

『おうち時間』を過ごす間、部屋の何処かに一本でも良いからお花を押し眺めましょと、じつと花と向き合う時間を過ごしてまいりました。

ありのままの姿でせいっぱい生きている花のその姿は、私たちに元気をくれるし、喜びも与えてくれるし、なぐさめももらえます。花はただただそのような姿、形、香り、たたくまいをもって、生まれてきたその命を生きようとしているだけなのです。その花が自分のもっている美しさというものを堂々と表現して命を終えていくことを思うと、なお大切に活けようと思います。そして、すべての命を育み、見守り、最後は土に還してくれる大地は本当に偉大だと思っております。

大地に感謝しながら、一期一会の気持ちをもって一人一人が大切に活けました。まだまだ未熟ではございますが、可愛らしいお花たちを「覧になりほつりして和んでいただければこのうえない幸せでございます。

野の花あしらい華風会会員一同

令和二年度 山鹿市芸術文化祭参加

## 第四回 野の花あしらい華風会花展

### なごみの花たち第四章

## 大地に感謝を

日時 令和二年十一月十日 十時～十七時

十一月十一日 十時～十六時

会場 山鹿市民交流センター